

ぱびるす

聖学院大学総合図書館報

第45号 (2007年11月)

特集
理想の図書館



初めに図書館ありき

—理想の図書館—

若松 昭子

古代エジプトの首都アレクサンドリアに大きな図書館があった。当時の政治、経済、文化の中心であった街の名にちなんで、アレクサンドリア図書館と呼ばれていた。創設者は、紀元前4世紀、アレクサンダー大王の死後にエジプトの領土を受け継いだプトレマイオス一世とも、その息子プトレマイオス二世とも言われている。プトレマイオス朝の歴代の王は文化、芸術、学問を保護することに熱心で、書物収集をはじめ注解・校訂作業や外国語文献の翻訳などにも力を入れた。図書館の最盛期にはパピルスを中心に70万巻の蔵書があったと伝えられている。アレクサンドリア図書館は、古代エジプトの繁栄と共に発展しその滅亡と共に衰退していったが、プトレマイオス朝の最後の王とは、かの有名なクレオパトラ女王（7世）であった。

絶世の美女といわれるクレオパトラについては、文学、絵画、映画などにも繰り返しとりあげられているが、これらの小説や映画の中にもアレクサンドリア図書館が度々登場する。古代ローマの将軍カエサル（シーザー）がエジプト遠征の際にこの図書館を炎上させ、クレオパトラは大変怒り悲しんだという話や、蔵書を消失して悲嘆にくれているクレオパトラのために、カエサルの跡を継いだ将軍アントニウスがアレクサンドリアと敵対していた古代都市ペルガモンの図書館から20万巻の蔵書をまるごと戦利品として略奪し、恋人クレオパトラにプレゼントしたという話も残されている。書物は、当時、大変な貴重品であったことがうかがえる。

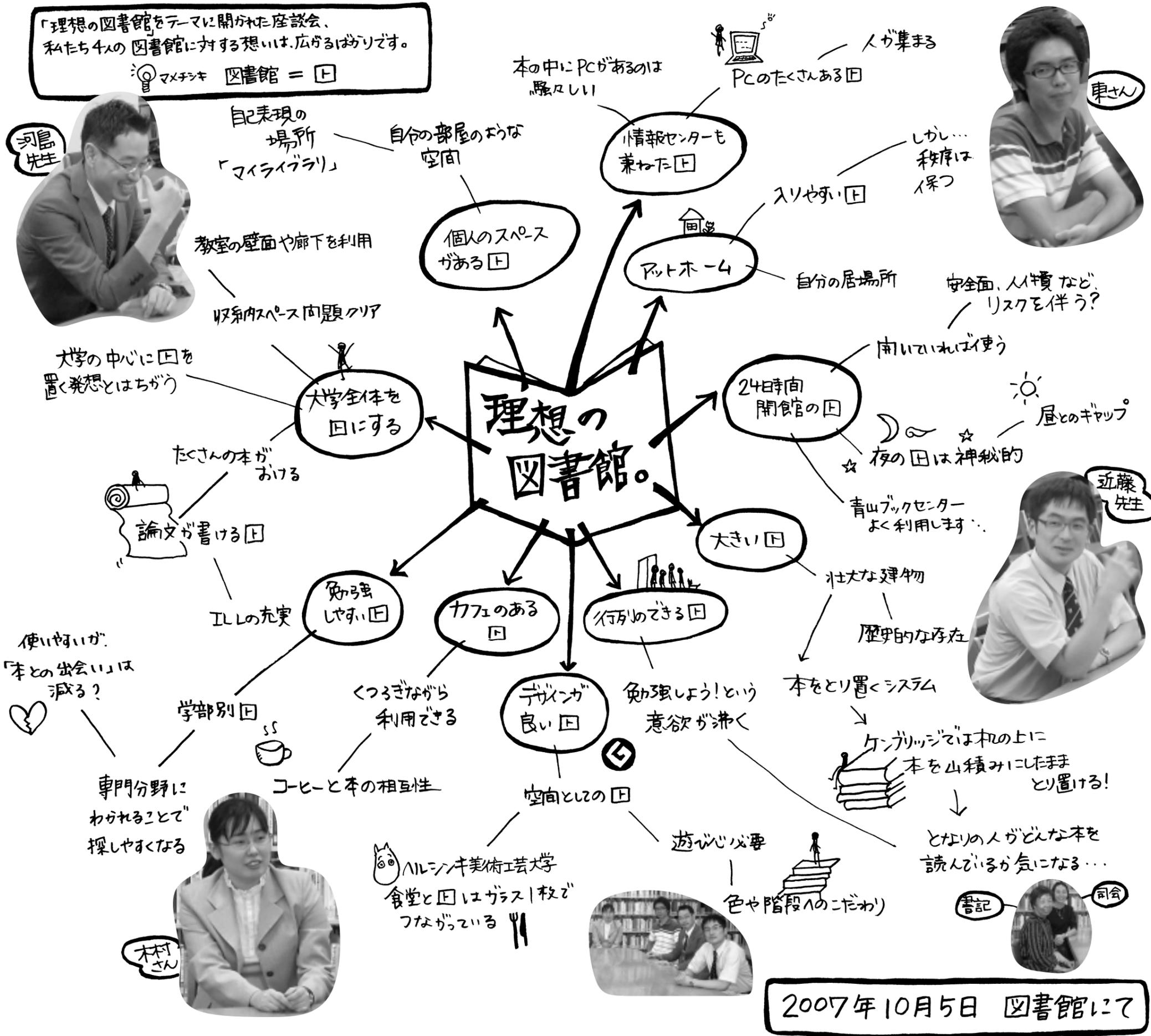
ところで、アレクサンドリア図書館は、今の私たちの身近にある図書館とは少し趣が異なっていた。図書館は王宮の一角にあって、現在の大学のような機能を果たしていたといわれる。図書館で

は、近隣諸国から集まった文人、学者、知識人たちが専門分野の学問や研究を行い、また彼らの教養を請うために各地から集まってきた学生たちは熱心に勉学に励んだ。そのなかには、幾何学者エウクレイデス（ユークリッド）や、地球の直径を計測した天文学者エラストテネスなどもいた。研究室や実験室のほか、講堂、食堂、体育場、庭園、散歩道、また宿泊施設などもあったという。写本作業を行う写字室では書物が生産され、出版社の役割も兼ね備えていた。「アリストテレス著作集」の編纂や、ホメロス著作「イリアス」「オデッセイア」などの校訂作業もここで行われた。世界で最初の総合目録『ピナケス』も編纂され、図書館員としても有能な人々がいた。

近代図書館と違って誰でも自由に使えたわけではなかったろうが、私はここに一つの学術図書館の理想形を感じる。よく「図書館は大学の心臓部」と言われるが、全ての大学において図書館がそのように活発に利用されているとはいえないのが実情だ。立派な図書館を備えている大学もあればそうでない大学もある。図書館を活用する先生もいればそうでない先生もいる。図書館で学習する学生もいればそうでない学生もいる。現在では、大学図書館は大学の附属的な施設なので、図書館を使わなくても大学生活を送ることができるのだ。しかし、アレクサンドリア図書館はまるでその逆である。まず、古今東西の貴重な書物を有する図書館がある、それらの書物を求めて学者たちがそこに集い学術研究を行う、すると高名な学者を慕って学生達が参集してくる。文化や学術に造詣の深い王家の庇護の下、知の宝庫である書物の殿堂に起居し、書物を囲んで師や友と語らい、司書の助けで必要な情報はすぐに手に入り、そして自ら書物も生産する。何とも贅沢で楽しい空間ではないか。できることなら、聖学院大学の図書館がそのようなものであったらと夢見てしまう。

(基礎総合教育部 教授)

河島茂生先生：基礎教育学部の河島です。大学図書館の理想を考えると、施設面でいえば多数の蔵書を揃えることが大切です。しかし、現在どの図書館もスペースの問題で悩んでいるので、大学全部を図書館化するというのはいかがでしょうか。教室内や廊下などに本棚を置くなどしてね。蔵書管理は、ICタグや自動貸出機などを導入して、無断で学外へ持ち出すとGPSが作動するといったことに対応してね。また、図書館内に個人の書棚を作ることにも面白いと思います。図書館の選書方針に従った蔵書構成では、多様化した個人のニーズを満たすことができなくなっています。それなら、利用者個人の書棚を用意することによって、マニアックなニーズを満たされるようにするのです。それは、自分の書棚を見せるという自己表現にもつながっていくと思います。



木村里美さん：大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程3年の木村です。私にとっての「理想の図書館」は、留学中に体験した図書館と重なります。閲覧席の周囲は各専門分野に分かれた古い蔵書で囲まれていて、建物も歴史的雰囲気を感じます。そこは静かな空間で、緊張感がありますが一方、館内にはカフェもあり、珈琲を飲みながらゆったりと利用できます。そんなバランスがとても魅力的に思います。

東清志さん：日本文化学科3年の東です。私が図書館を使うようになったのは大学に入ってからです。それまでは勉強好きな人のための場所だと思っていたのであまり縁がありませんでした。だから私は図書館の入り易さが大切だと思います。中の雰囲気はアットホームなのがいいです。一方勉強するための秩序も保たれ、学習に必要な本が揃いレポートを書くのに適した環境であると、私たち学生にとって良いと思います。

そして
聖学院大学
図書館は?

近藤存志先生：欧米文化学部の近藤です。理想の図書館と聞いてすぐに思い浮かぶのはケンブリッジ大学図書館のような壮麗な大型図書館です。実際に勉強する場所としては、巨大な図書館の中の、書庫の奥にひっそりと設けられているような小さな空間が理想だと思います。また、勉強する気にさせられる雰囲気というのも図書館には大切でしょう。たとえば開館前に行列ができていような図書館では俄然やる気のでるものです。私は実際に学生時代に行列のできる図書館というものを体験したことがありますが、図書館にある種の熱気があるのは良いものだと思います。

2007年10月5日 図書館にて

そして聖学院大学総合図書館は？

～みんな👤👤👤の質問に図書館📖が答えました～

👤👤👤：図書館がかつて本館といわれていたのは素晴らしい。大学の中心と考えている。本の館(ほんのやかた)と読み替えても良いですよ？

📖：それは1階部分に、事務所があったので本館と呼ばれていました。当時図書館入り口は2階にあったのです。

👤👤👤：総合図書館の名前の由来は何ですか？

📖：女子聖学院短期大学と聖学院大学の共用の図書館だったことから総合がついたと聞きました。

👤👤👤：建物として、現在の図書館が展開する可能性はありますか？

📖：空調設備を変え、カウンター後方のボイラー室を図書館スペースにできたらと思っています。

💡：図書館に5階を作りカフェテリアにしたら楽しい。1階の真ん中を体育館へ抜ける通路があったり、正面側の外壁にガラス張りの階段を作ったり、4号館から図書館2階へ渡る廊下を作ったりと遊びのある動線が考えられたら面白いですね。

👤👤👤：夜間の利用者数と光熱費などコストを考えると夜間の開館はもったいない気もしますが…

📖：大学院の授業が21時までなので21時30分までの開館としているのです。

💡：夜、灯りがついて図書館が浮き上がっている景色は良いものですよ。

👤👤👤：閲覧席300は多すぎませんか？その分、書庫が増やせるのでは？と思ったりしますが。

📖：学生数の1割程度の閲覧席を用意することが良いとされています。試験前は満席に近くなるので少なくすることは考えにくいです。

👤👤👤：収納館にある本を頼んだ時、「本当に使いますか？」と念を押されました。

📖：蔵書26万冊のうち1.6万冊を学外の書庫(収納館)で保管しています。古くあまり使われないうちの本を選んで移動しました。取り寄せても「役に立たないかも」と心配をしているのです。すぐに提供できず申し訳ないと思ってます。

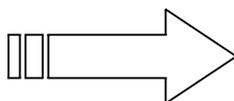
👤👤👤：グループでおしゃべりしながら勉強する部屋があると同時に、おしゃべりを絶対にしないすごく静かな部屋もあったら良いと思います。

📖：改装前の図書館には仕切りの付いた個室のような比較的静かな空間がありました。現在の図書館は、入口近くにPCを並べ図書館へ入りやすくする事に重点を置きました。院生たちには静かな空間を提供する配慮が必要かもしれません。

💡：修士、博士論文の作成に耐えうる図書館であって欲しいですね。

知ってますか？ 図書館HPが変わったこと。

図書館のHPが今年7月に新しくなりました。特にデータベース一覧が充実！データベースが目的別に選びやすくなったほか、紹介もいろいろと載せていく予定です。一度、図書館HPを訪ねてみてください。



「こちら」をクリックすると…



充実のデータベース一覧が表示されます

発行・編集 聖学院大学総合図書館 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
電話：048-725-5461(直) FAX：048-780-1096 E-mail：lib@seigakuin-univ.ac.jp